

# センターだより

NO. 1 O

平成22(2010)年2月1日発行  
吹田市立教育センター  
大阪府吹田市出口町2-1  
TEL 06-6388-1455  
FAX 06-6337-5412  
メール [s-educ@suita.ed.jp](mailto:s-educ@suita.ed.jp)

## ◎●教育相談の現場から—今の子どもたちの姿を通して—●◎

### 1. 相談することの意味

先生や保護者の方からよく「どうしたらいいですか？」と対応法や手立てについて聞かれます。それがわかるためには、子どもが出すサインや言動の裏にある「気持ち」についての理解が大切だと思います。子どもはいろいろなサインの出し方をします。暴言や暴力、非行など「行動」として出すタイプ、頭痛や腹痛など「体」に出すタイプ、不登校や引きこもりのように「内側」に向くタイプなどがあります。表現の仕方はそれぞれ違いますが、共通しているのは、子どもたちが自分の感情や気持ちがなんであるのかをうまく捉えられなかったり、出し方がうまくコントロールできなかったり、出してもどうせわかってもらえないのではないかと不安感や怒りがあったりすることです。

私たち相談員は、保護者や先生たちから話を聞いたり、本人に検査や面接をしたりすることで、子ども自身の性格特徴、子どもの物事の理解度や認知の特徴、現実検討能力、人との距離のとり方やコミュニケーションの特徴、感情をコントロールする力、友達関係、家族背景やきょうだい関係などをつかみます。そして相談を積み重ねていく中で、子どもの中で何が起きているのかを保護者と一緒に考えていきます。アドバイスを伝えるときもありますが、できれば保護者や子どもも自分たちで感じたり考えたり、物事を判断する力をつけることを目指しています。それが、今後困難やつらい出来事にぶつかっても自分で対処したり乗り越えたりする力につながると思います。

### 2. 気持ちに「名前」をつける

子どもがどんな気持ちを抱えているのかを理解し、その感情を「ことば」にして伝えることが大事だと思います。赤ちゃんが固くて食べられないものを、養育者がやわらかく小さくして食べやすいように与えるのと同じように、子どもの中で抱えきれない怒りや不安などの気持ちを周りが汲み取り、咀嚼することで、少しずつ子どもが自分でも気持ちを抱えられるようになっていきます。そのときに、「この卵おいしいね」と声を掛けながら物の名前を教えるように、感情にも「名前」をつけていきます。「しんどかったね」「今日はいらいらしているように見えるよ」「悲しかったのかな」と、子どもの心の中で起きているもやもやを引き受けながら、ことばで返していく働きかけによって、次第に子どもが自分のことばで自分の気持ちを話せるようになります。行動や身体症状、内側にこもるといった表現の形ではなく、ことばで自分の思いを出せるように表現の形を変えることが大事だと思います。自分の感情をわかってもらう体験をすること、自分の感情に気づくことが、さらには他者の気持ちの理解につながると思います。

### 3. ネガティブな気持ちの取り扱い

周りの大人は学校へ行けない子どもが学校へ行くことができたり、友達と遊べるようになると喜びます。一緒に喜ぶことは大切ですが、子どもの中には周りの期待に応えてそれらをしている場合もあります。子どもの中で、自分が「したい」と思ってやっているのか、周りから「させられているのか」わからず、外に出ると自分の主体性がのっとられてしまうように感じ、再び、こもってしまうことがあります。

できること、やれることばかりに目がいくと、反対に「できないこと」「弱音を吐く」ことや、不安や苛立ち、怒りなど「負」の感情を出すことが「よくないことである」と子どもたちが感じてしまう可能性があります。子どもが無理をして学校へ行っていないか、つらい気持ちを無理に飲み込みすぎているかを注意

していないと子どもを追い込んでしまうことがあります。周りに合わすことは人間関係の中ではとても大切ですが、自分の主体性がほどよく保てること、どんな感情でも感じたり、それを出しやすい人には表現していくことが大事であると思います。

#### 4. 成長するとは…

最近、家庭環境もさまざまであり、虐待を受けた子どもの後遺症の課題（虐待的な環境からは脱したもの、その後気持ちの不安定さや暴言や暴力、不登校など）や、保護者が鬱など精神的な病を抱えており、そのことが子どもに及ぼす精神的な影響など、子どもを取り巻く状況は複雑化しているように思います。子どもの精神発達の課題も個人差が大きく、人への信頼がなかなか持てずに周囲は無力感を感じることも多くなったように思われます。

相談に来られても、自分で葛藤を抱えたり、悩んだりすることは苦しいため、手っ取り早い解決を相談に求められることが増えてきました。便利ですばやさが時代の流れでもある中で、子どもが変化し、成長することには時間と根気が必要であること、また成長するには、いろいろなことができるようになるという喜びがあるとともに、自分の限界にぶつかったり、現実に向き合ったり、「喪失」したりする体験も含まれていることを、もう一度思い返す必要があると思います。喪失の痛みを抱えていながら、子どもたちが「成長していきたい」と思える心の丈夫さを持つように、周囲の大人が子どもたちと一緒に支えていけることを願っています。

## 第58回読売教育賞 特別支援教育部門

## 最優秀賞受賞記念講演

### 【テーマ】「かな単語聴写検査作成と通常の学級における読み書き支援の実践」

読売教育賞は、読売新聞社が教育の発展の一助にと、教育現場での意欲的な研究創意あふれる指導を行い優れた成果をあげている教育者や団体を対象としたものです。13部門の中の特別支援教育部門で、最優秀賞を受賞した本市での実践が、各校での取組に活用していただけるものと考え研修として実施いたします。

【講師】教育センター主幹 森田安徳 吹田第三小学校 指導教諭 辻本 裕子

【日時】平成22年2月9日(火) 16:00~17:15

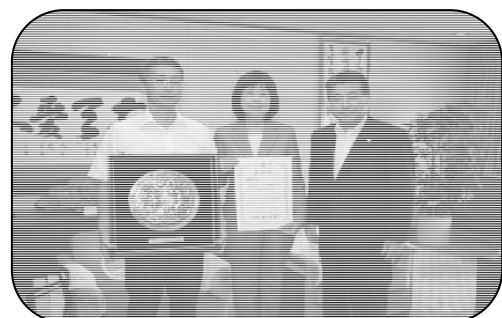
【場所】吹田市立教育センター 視聴覚室(2階)

【対象】吹田市立幼稚園、小・中学校教職員

【申込】教育センター研修申込みシステムによりお願いします。

(研修番号は 230で入力してください)

小学校入学後の最初の関門である「かなの読み書き」は低学年のうちに克服することが学力低下を防ぐ第一歩だと考えています。そこで、簡単にできる書き取り検査を行い、正答率の低い児童に対し、言葉遊びやゲーム形式で楽しめるトレーニングを行い読み書きに改善がみられた実践を報告します。



## ◇◇2月の研修紹介◇◇

教育課題別研修 学力向上1  
(研修番号71)

### 「校内授業研究の活性化を考える」

—教科・校種の壁を越えて授業研究を進めるために—

- ①公開授業 1年数学科【6時限目】单元名「資料の活用」  
②研究協議 【15:40～17:15】

2月16日(火)14:25～  
山田東中学校にて

授業者 吹田市立山田東中学校 教諭 藤田悟己

講師 関西大学人間活動理論研究センター長 山住勝広氏

☆新教育課程が求める「自分の考えを表現する力」を具現化する授業提案です。

□中学校において教科の壁を越えて授業研究を進めるために、次の3点の提案をします。

- ① 教科を越えて共有化できる「授業を見る観点」を明確にする。
- ② 子どもの学びの姿を大切に見取るためビデオ映像を活用する。
- ③ 教師同士の相互交流の場を大切に、参加者にとって学びのあるものとする。

□小・中合同の校種の壁を超えた研究会を!

授業改善を進めるためには、授業研究会の充実が鍵となります。是非、みなさんいっしょに考えませんか？ 多数のご参加をお待ちしております。

## ◇◇1月の研修から◇◇

ステップアップ研修Ⅱ「授業研究」小学校5年国語科「交流を通して読み深めよう」

授業者 山田第三小学校教諭 阪上 友紀(教材『大造じいさんとガン』) 1月23日実施

一人ひとりの子どもが、自分の考えを持った上でペアと交流し、その後クラス全体で深めていく授業の提案でした。また文学教材で確かな「読む力」をつけることを意識した授業でした。研究会では、主要発問・板書・交流方法等について熱い協議が行われました。

<感想より>教材を読み込む面白さをグループ討議の短い時間で学びました/授業の中心発問を工夫することで交流が活発にできることを学んだ。同期の授業を見て、自分もがんばろうと思った。/学びの後のわかる掲示物の効果を学んだ。



情報教育研修 1月18日(月)実施  
中学校「理科」におけるICTを活用した授業づくり



内容:「地球と宇宙」  
～星の日周運動について～  
授業者:桂 弘子  
吹田市立第一中学校教諭

指導助言:和歌山大学准教授 豊田 充崇氏  
情報教育研究グループ 山内 祐

<公開授業>

パソコン・プロジェクタを使用し、生徒の興味・関心を引き出す工夫がなされていました。プレゼンテーションソフトで動画を活用しての説明は、生徒にとっても分かりやすい説明でした。

<指導助言> デジタルとアナログを融合させての授業づくりについて、また、授業中生徒の活動の取入れかたについてお話しいただきました。(豊田先生) 吹田市のICT環境今までと今後についてお話しいただきました。(山内先生)

<感想>プレゼンテーションソフトで動画を使っただけの説明が良かった。/情報機器を利用した授業の幅が広がった。

情報教育研修 1月25日(月)実施  
普通教室におけるICT活用授業の方法とその学習効果



～教育の情報化と  
学力向上～

講師:和歌山大学  
准教授 豊田 充崇氏

ご自身の中学校教員時代のICTを活用した実践例から、ICT機器を活用するだけで学力向上につながるのではなく、ICT活用を機会に『授業改善』が進むことにより、学力の向上が見られるということをお話しいただきました。

また、ICT活用の5ステップとしてプロジェクタの有効活用法についてもお話しいただき、パソコンでインターネットが出来るだけでも十分授業で活用できる等、分かりやすく約1時間30分熱心にご講義いただきました。

<感想>ICT活用の授業は、なかなか取組みにくいと思っておりましたが、お話を聞き是非取組んでみたいと思いました。/PCに不安があってもできると思えた。



# 2 ~ 3 月 教 職 員 研 修 予 定



講座名	番号	研修テーマ・講師名・概要等	会 場	日 時	対 象	
ライフステージにあった研修	初任者研修	27 「教職2年目に向けて」(グループ協議等) 「児童・生徒への指導の実践」 講師 NPO法人 いきいき・のびのび健康づくり協会 理事長 梅本道代氏	千里たけみ小学校	3月25日(木) 午後	初任者教員(小・中) 新規採用養護教諭 新規採用事務職員	
	ステップアップ研修	42 ステップアップ研修Ⅰ「実践報告・交流・次年度に向けて」	教育センター 視聴覚室 (2階)	2月8日(月) 16:00~	ステップアップ研修Ⅰ 受講者	
課題別研修	71	「校内授業研究の活性化を考える」 一教科・校種の壁を越えて授業研究をすすめるために一 公開授業 山田東中学校 1年生 数学「資料の整理」 授業者 山田東中学校教諭 藤田 悟己 助 言 関西大学文学部 教授 山住勝広氏	山田東中学校 視聴覚教室 図書室	2月16日(火) 14:25~	教職員	
特別支援教育研修	230	読売教育賞特別支援教育部門最優秀賞受賞記念講演 「かな単語聴写検査作成と通常の学級における読み書き支援の実践」 教育センター主幹 森田安徳 吹田第三小学校指導教諭 辻本裕子	教育センター 視聴覚室 (2階)	2月9日(火) 16:00~	教職員	
	226	事例研修(学習領域) スーパーバイザー:大阪医科大学LDセンター言語聴覚士 西岡有香氏	教育センター 視聴覚室 (2階)	2月15日(月) 16:00~	教職員	
教科・領域研修	小学校英語活動研修	91 96	授業力アップ研修 第6回・指導力アップ研修 第3回 「6年公開授業」(英語ノート2) 授業者 岸部第二小学校教諭 金崎栄一 講師 山田第五小学校教諭 篠田美千子 ※大阪府小学校外国語活動中核教員研修を兼ねる	岸部第二小学校	2月8日(月) 14:40~	小学校教職員 中学校英語科教員
		97	指導力アップ研修 第4回 「英語ノート マイクロティーチング研修」 講師 吹田市教育委員会指導主事 ※大阪府小学校外国語活動中核教員研修を兼ねる	教育センター 視聴覚室(2階) 情報科学室(2階) 第二会議室(1階) 実技研修室(1階)	2月16日(火) 15:30~	小学校教職員
		92	授業力アップ研修 第7回 「公開授業(英語ノートを使って)・講演」 授業者 大阪府教育委員会指導主事 信田清志 吹田市教育委員会指導主事 今枝かおり 講師 大阪樟蔭女子大学教授 菅 正隆氏 ※小学校英語担当者会と兼ねる	吹田南小学校	2月26日(金) 午後	小学校教職員 中学校英語科教員
		93	授業力アップ研修 第8回 「小学校英語活動の評価について(仮)」 講師 大阪府教育センター指導主事 土居正幸 ※小学校英語担当者会と兼ねる	教育センター 視聴覚室 (2階)	3月10日(水) 16:00~	
		109	「中学校・英語科の授業づくり」(公開授業・研究協議) 公開授業 1年「NEW CROWN Lesson 8『助動詞can』」 授業者 千里丘中学校教諭 金築未奈子 講 師 京都外国語大学教授 鈴木 寿一氏	千里丘中学校 1年5組教室 図書室	2月9日(火) 14:25~	小・中学校教職員
専門職研修講座 学校事務職員 リーダー研修	114	「学校組織マネジメントを生かした学校経営を考える」 兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 氏	教育センター 研修室 (2階)	2月1日(月) 15:30~	学校事務職員 (主幹・主査・副主査 等)	
情報教育研修	317	小学校「社会」におけるICTを活用した授業づくり 公開授業 3年生社会「くらしのうりかわり」 授業者:吹田市立吹田南小学校 教諭 西田 まなみ 助言者:情報教育研究グループ スーパーバイザー 山内 祐	吹田南小学校 3年2組	2月4日(木) 14:35~17: 15	小中学校教職員	

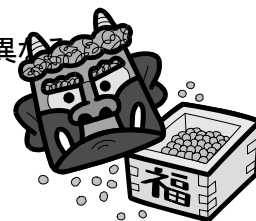
※各講座の詳細は、各学校ごとに送付します実施要項をご覧ください。

## 新教育課程に向けた学校教育 No. 8

今月は、22年度変更部分を掲載します。

小学校;国語→現行学習指導要領による場合、3年生でローマ字の学習を補う  
算数→全学年とも、追加・省略で内容が異なるため、最新の注意が必要  
理科→5、6年生では、追加や削除、学年移動があり、21年度と内容が異なる

中学校;社会→1年生では、地理・歴史の時間配分を新課程と同じにする  
数学→3年生は大幅な変更がある  
理科→2年生で移行実施



一同学年でも昨年度と内容が変わっています。変更箇所の確認をしておきましょうー